

よきかな若人

～飯綱山こそわれらが希望～

卒業証書授与式 学校長式辞

冬の冷たい雪を耐え忍んだ梅の花が美しく咲く季節になりました。

本日この佳き日に、飯綱町長 峯村勝盛 様、飯綱町議会議長 渡邊千賀雄 様、飯綱町教育委員会 教育長 馬島敦子 様、教育長職務代理村松克視 様、教育委員の吉澤 奉子 様、宮島千幸 様、飯田 治夫様にご臨席を賜り、令和四年度の卒業証書授与式が挙行できますことを、卒業生はもとより、在校生、教職員一同、感謝の念にたえません。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

本日ここに、本校の全ての学習過程を終了するとともに、九ヶ年の義務教育を終え、卒業証書を手にした卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いの言葉をお贈りいたします。とりわけ、この三年間は、新型コロナウイルス感染症への対応に苦慮しながら、「自分と、自分の大切な人の命を守る」ということに心を砕かれた日々だったことでしょう。感染拡大予防という難しいリスクマネジメントをやり通し、困難に打ち克つてきました。同時に人権感覚も磨いてきました。皆様のご協力にも心より感謝申し上げます。その厳しい道のりを乗り越えてきたことに對してもお祝いを申し上げたいと思います。

飯綱中学校に入学以来、素晴らしい環境の中で、個性豊かな仲間と、たくさんの思い出ができたことでしょう。この一年間皆さんと生活をさせていただき、修学旅行に一緒に参加し、皆さんの気持ちの良さや仲間を大切に思い生活できる姿に感心しました。他にも、部活動での皆さんの頑張りに、一喜一憂し応援しながら熱が入りました。特に、第53回飯綱校祭では、「ALL STAR」の役割は君だ！のテーマのもと「TEAM 飯綱」全校一人ひとりが主役となって輝きを放ちました。思いを声に出し合っかけて繋がりました。その感動は、今も心の中に残っています。これまでに至るには、例年の卒業生には無い学びを体験し、時には、せつなく涙を流す場面もあったことと思います。そんな中を、学校教育目標「自主・友愛・剛健」を意識しながら、いつでも何事にも真剣に打ち込み、学校の顔として手本となり下級生をリードしてきてくれました。その証拠に、背中を追った二年生も一年生も立派に成長しています。皆さんは、この飯綱中に先輩を目指すという憧れの文化を築いてくれました。本当にありがとうございます。

飯綱中学校を巣立っていく君たちに、最後の言葉を贈ります。「五つの誓い」命の授業講演家 腰塚勇(はや)さんの言葉です。口は人の言葉を最後まで聴くために使おう。耳は人の言葉を最後まで聴くために使おう。目は人の良いところをみるために使おう。手足は人を助けるために使おう。心は人の痛みがわかるために使おう。どうか安全・健康に留意して、授かった命を大事にしてください。改めて、皆さんお一人おひとりが唯一無二の存在であること、また、自分の個性や可能性を認識し、自分らしく生きるとともに、多様な他者を尊重し、協働しながら、持続可能な社会を作っていくきましょう。夢の方向につま先を向けて、次のステージへのみんならしい力強い一歩を、自分の力で踏み出してください。私たちは、皆さんのことをずっとずっと応援しています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。この三年間、本校の教育活動に深いご理解とご支援をいただきましてありがとうございます。今後も一層の励ましとご指導を賜りますようお願いいたします。

結びに、ご来賓の皆様には、日頃より飯綱中学校のために温かなご支援をいただき、深く感謝申し上げます。今後とも地域に生きる生徒たちの健やかな成長のために、一層のお力添えをいただきますよう重ねてお願い申し上げます。本日ご列席の皆様、ますますのご健勝をお祈り申し上げます。ご来賓の皆様、保護者の皆様、本校の伝統を引き継ぐ在校生の皆さん、教職員とともに、卒業生の輝かしい未来に夢を託し、式辞といたします。

令和五年三月十六日

飯綱町立飯綱中学校長 岩松 裕一

